

篠崎公園地区高台まちづくりの模型に浸水時の水面を透明な板等で追加することを求める陳情

(建設委員会付託)

受 理 番 号 第 39 号

受理年月日 令和6年6月10日

付託年月日 令和6年6月19日

陳 情 者

陳 情 原 文 本陳情は、篠崎公園地区高台まちづくりの模型に想定最大規模における想定水面高さを透明なアクリル板等により追加して設置することを求めるものです。

篠崎公園地区高規格堤防整備事業の第1次盛土工事に向けた準備工事が始まっています。いよいよ高規格堤防整備事業の盛土が本格化しようとしています。事業や工事の説明資料や看板には高台まちづくりとの表記が見られます。篠崎公園地区高台まちづくりの立体模型が造られ、事業や工事の説明会の際に展示されています。

「まちづくり」はその地域に住む人々にとって、とても重要な事案であると思います。日々の生活を営んでいる「住まい」そのものを再構築することを迫るものだからです。「住まい」への投資は決して軽微なものではありません。限られた収入で生活する住民に新たな投資を迫るには、行政は住民の高い納得感を獲得することが絶対に必要であると思います。

篠崎公園地区の「高台まちづくり」が「高規格堤防の上面を活用した高台まちづくり」にあたるのであれば、浸水時に、緊急的な避難場所や救出救助等の活動拠点として機能し、なおかつ、浸水しない連続盛土等を通じて浸水区域外への移動も可能なものと説明されていることになります。つまり、浸水災害に対する事前防災対策であるということです。

高規格堤防は計画堤防高を超える越流に耐え、破堤しない堤防とされていますが、計画堤防高から15cm高い水位を高規格堤防設計水位として設計しているものです。越流水深が15cmまでの越流に耐えることは保証されていますが、想定最大規模降雨でも破堤しないことは保証されていません。そして、計画堤防高から民地側に1:28.2の勾配で基本断面を持つ盛土がなされるものです。盛土該当地区に居住している住民は高規格堤防盛土に擦り付けた宅盤の上に住居を再建することになります。そこは浸水しないという保証もありません。

住民の立場から見ると、「高台まちづくり」にあたって、自身が再建を迫られ

(裏面に続く)

る「住まい」が「浸水時」にどのような状況になると想定されているのかが大きな着眼点になるのではないのでしょうか。「高台」という言葉から、「浸水時」にも安心して、安全に住むことができるようになることを想起するのは自然なことでしょう。

篠崎公園地区高台まちづくりの立体模型が造られ、事業完成後の姿を示しています。しかし、説明されている「高台」の「まち」が浸水時にどのようなのかは示されていません。「まち」の新たな起伏に従って浸水がどこまで来ると想定されているのかが示されていません。事業の前提を示していないことに等しいでしょう。

篠崎公園地区高台まちづくりを住民の方々に十分にご理解・ご協力いただくには、想定最大規模における想定浸水深さを模型にきちんと表示することがとても大切であると考えます。それには、浸水の水面を透明なアクリル板等で模型に追加設置することが有効であろうと思います。是非、篠崎公園地区高台まちづくりの模型に浸水時の水面が分かるような想定面を追加してください。

つきましては、下記のとおり陳情いたします。

記

- 1 篠崎公園地区高台まちづくりの模型に想定最大浸水時の水面を透明なアクリル板等で追加することを求める。
- 2 想定最大浸水深さと本事業で引き渡す宅盤高さを権利者等へ書面によって周知することを求める。